

中国人日本語専攻の大学生が使う日本語教科書に描かれた日本のイメージ

北京外国語大学 朱桂榮 潘蕾

### 1. 研究背景

外国語学習を通じて、学生は言語知識を得るだけでなく、対象国の概況や社会文化を理解することも不可欠である。さらに、自国の状況と比較し、両国に対する理解を深め、異文化交流において架け橋となる役割を果たすことが期待されている。

外国語学習において、外国語の教科書は教育目的を達成するためのツールであり、学生が知識と情報を獲得するための重要なリソースでもある。本研究は、教科書研究の一環として、中国人日本語専攻の大学生が使う教科書を対象に、中国で出版された日本語教科書に描かれた日本のイメージを明らかにし、教科書編集への示唆を得ることを目的とする。

### 2. 先行研究

杜尚榮、李森（2014）によると、教科書編集において、知識の体系性、学生の成長、使用可能性の間の競争と共存の関係が存在すると指摘されている。言い換えれば、教科書編集は非常に複雑な作業である。具体例を挙げると、外国語の教科書では、語彙、文法などの言語知識が目立つが、登場人物の設定などが隠れた要素と言える。朱桂榮、彭子燕、楊録溪（2024）は、性格の一貫性、関係性、真実味、文化性と異文化性などの点から外国語教科書の登場人物の設定を分析し、隠れた要素の設定の重要性を示した。実際、教科書では、語彙の順序、文法の説明、練習問題などのデザインに加え、文章や、例文、挿絵、コラムなどを通して様々なイメージも作り出している。これらの要素は、無意識に学生に影響を与えることがある。従って、教科書は言語知識だけでなく、文化的な側面も伝えるための重要なツールでもある。教科書における表現は、学生が対象国に対するイメージを形塑る上で重要な役割を果たすと思われる。

一方、ある国のイメージについて、張鵬・呂立傑（2018）は、物質的・制度的・文化的イメージと国民に関するイメージがあると述べている。また、劉光成・黃亜雄・譚亜香（2021）は、「自然、文化、政治、国民に関するイメージがあると述べている。さらに、張裴裴、王攀峰（2021）は、物質的、社会的、文化的なイメージがあると述べている。このように、様々な観点があるが、本研究は、それらの文献を参考にし、外国語教科書を分析する際に必要な枠組みを決め、その枠組みに当てはまる要素を適切に分類し、ある国について全体的にどのようなイメージが描かれているのかを把握する。

もちろん、外国語教科書において、自国のイメージ、対象国のイメージとほかの国のイメージなどの区別があるが、本研究では、紙幅の関係で、まず対象国である日本のイメージを明らかにし、学習者の自国である中国のイメージについては、他の機会に譲る。

### 3. 研究対象

本研究では、彭広陸、守屋三千代を総編集者とし、北京大学出版社が出版したシリーズ教材『総合日本語』（第1冊～第4冊）を研究対象とする。この教科書は、中国の大学の日本語専攻の主幹科目「基本基本語」の教科書である。『総合日本語』を選定した理由は、中日両国の専門家が協力して編纂し、日本語専攻の基礎段階の教科書として代表的であり、2005年に初版された以来、中国の日本語教育界で広く使われているからである。